



授業する望月参事

東京都足立区の中川東小学校で9月20日、日本対がん協会の協力でタバコの害についての出張授業が行われた。講師は、禁煙教育に長く取り組んできた日本対がん協会の望月友美子参

事で、6年生の4クラスの児童約120人を対象に、タバコの害やがん予防についてわかりやすく解説した。望月参事は、タバコを200種以上の有害物質が含まれている「毒の缶詰」であると表現。タバコを水に浸した茶色の「タバコ水」にアサガオを入れると枯れてしまうことやミミズも死んでしまうことも示しながら、タバコを吸うことで、その毒が肺から血液に入っていく、全身に広がっていくことで、全身の細胞を傷つけ、

## 望月参事が

# 出張授業

様々ながんや脳卒中などを引き起こす全身病であることを説明した。

また、タバコは、人が吸っているのをみて真似して吸い始める人が多く、そこから吸う人が広がっていくことから、タバコも感染症と同じと比喻し、子どもたちをタバコから守るワクチンとなるのが、タバコの害について自分で判断する知恵を得ることであることを解説した。

さらに「がん予防の初めの一步はタバコから」として、「タバコを吸うのをやめた人がいたらほめてあげて」と。子どもたちに語りかけていた。